

# はやま もり 麓山の杜みどり通信

発行元 公園振興事務所「とんがりふれあい館」  
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17  
TEL924-2194 FAX924-2195

収穫しました「宇宙いも ムカゴ」



平成24年度「みどり講習会」

次回 3月10日(日)午前・午後開催  
場所 麓山の杜「杜のエントランス」

テーマ「記念樹の育て方初歩講座」  
時間 午前 10:30 午後 13:00

※ワンポイント リガーデン(庭の改良)相談  
記念樹交付「10時～15時」他は事務所へ

ガーデニング  
ワンポイント

## 冬へ向けての準備が必要です

公園内の落葉樹は赤や黄色に変わり、そして風に吹かれ枝から舞い降りていく葉も見られます。市街地の園内も晩秋に向けて時が進んで行っています。移りゆく季節は何時もの事ではありますが特に寂しさを感じるのはこの時期のように思います。

【水やり】 気温も下がりましたが乾燥が続くときはこれからの季節でも灌水は必要です。特に今年植えた樹木などはまだ根の張りも少ないので水の管理は大事です。また常緑樹は冬でも蒸散をしますので必要です。水やりは樹幹全体に水をかけます。

【肥料】 樹木はこの時期は必要ありません。寒肥は時期を待ってあげるようにします。

【病虫害防除】 マツ類につくマツカシハは今年の夏に孵化した幼虫が樹皮や葉の混み合っている場所で越冬します。そこで幹にコモを巻き付け誘因して退治することも可能です。ただその時に大事な天敵まで殺してしまう弊害もあります。病原菌も葉や樹皮などに付き増殖します。それを防ぐために落ち葉などは片づけて処分します。冬季だけに使える薬剤もあります。増える前や被害の少ないうちの薬剤散布などの防除が大切です。ただし薬剤は注意書きを守り、最小限の使用に抑えます。

【剪定】 これからの常緑樹は強く剪定することは控えます。来年の芽吹きが悪くなります。マツ類は枝透かしなどをしてさっぱりとさせます。落葉樹の強い剪定は落葉後まで待ちます。来年の花芽が出来ている樹木は注意しないと花芽まで切ってしまいます。剪定作業は季節に応じた強弱が大事です。剪定を強く行くと樹木は風邪をひいてしまいますよ。

【植え替え】 常緑広葉樹は寒さの害を受けやすいためにこれからは厳しくなってきます。サザンカなどはこの時期に多く園芸店の店先に並びます。ただし一番良い植栽時期は春の彼岸頃です。関東以北の場合は特に考えなければなりません。観賞時期と作業時期は別物です。落葉樹は落葉後まで待ちます。針葉樹はこれから霜が何度か降りてからは可能になります

【冬越】 寒さに弱い植物は霜などが降りる前に取り込みます。露地植えの寒さに弱い樹木はバタ掛シートなどを掛けて寒さから守ります。

次回交付日	みどり講習会	季節のワンポイント
3月10日	記念樹の育て方初歩講座	リガーデン（庭の改良）相談

## 意外と知らない植物の世界

10月21日に公園内で秋の自然観察会を行いました。実体顕微鏡でカイガラムシ（かまのりゅう）を観察したり公園内の色づいた木々をめぐり、最後に茶室で呈茶をいただきました。来春3月にも予定していますので、是非ご参加ください。公園内にはケヤキの木がたくさん植栽されています。しかし、葉を見ると茶色に萎れているものや赤や黄色に変わってきたもの、そしてまだ緑のものと千差万別です。茶色に萎れているものは今夏の異常気象の影響です。赤や黄色の紅(黄)葉は先月号で述べましたメカニズムの違いです。まだ緑のものは土壌条件などの環境がよく樹勢が旺盛だと思われます。ただし、いずれは葉を落し休眠期を迎えます。その葉は一枚ずつ散り掃除が厄介な代物ですが腐葉土作りのよい材料になります。皆さんはケヤキの種を知っていますか？丸い小さな形をして木の下にいっぱい落ちています。翌春に発芽してもケヤキの大木の下で育つことはまずありません。育てたては先にあるケヤキの障害になってしまいます。ところがそのケヤキの樹勢が衰えると、子孫を残そうとする為か葉と種の付いた小枝ごと落ちていきます。種だけでは樹冠の下だけにしか落ちませんが、葉の付いた小枝なら風により遠くへ運ばれて生育するために適した場所に落ちる可能性があります。そこで生育できれば子孫が残る訳です。うまくできていますね。また公園内にはドングリ（堅果）を見つけることができます。シラカシやコナラやクヌギの実が園路に落ちています。このドングリを乾燥させずに蒔くと来春には芽を出します。来春3月の樹木観察会では、実際に樹木の種子を蒔いてみます。一緒に早春の樹木を観察しませんか？きっと、面白い発見があるかもしれませんよ！

### 街で見かけた植物

#### チャノキ（ツバキ科）

この公園内にも茶室があり抹茶をいただくことが出来ます。その緑茶をこの葉で作ります。中国南西部などが原産で日本には鎌倉時代に入ってきたと言われていました。常緑の低木で10月から11月にかけて白い花が咲きます。その花は香りがあります。種は翌年の秋に熟します。それを蒔くと簡単に殖やすことができます。ただ根が粗いため移植は好みません。

